

| | | | | | |
|-------|-------|------|---------|-------|------|
| 指定校番号 | 30020 | 学級活動 | ○ 児童会活動 | クラブ活動 | 学校行事 |
|-------|-------|------|---------|-------|------|

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

| | | | | | |
|-----|-----------|----|-------|--------|-------|
| 学校名 | 尾道市立吉和小学校 | 校長 | 石川 順雄 | 生徒指導主事 | 高岡 和也 |
|-----|-----------|----|-------|--------|-------|

取組事例名 『吉和チャレンジランキング大会』

取組における育てたい資質・能力

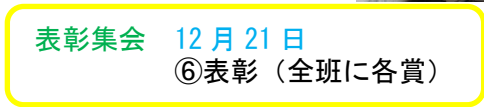
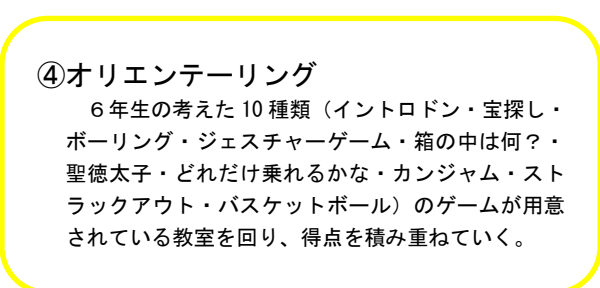
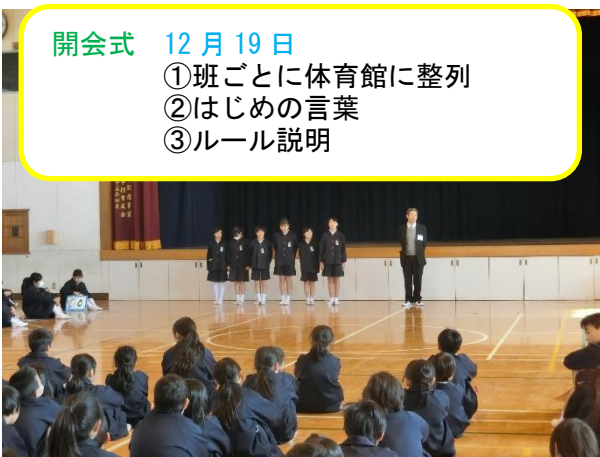
| 人間関係形成 | | 社会参画 | | 自己実現 | |
|---------------|---|-----------|---|---------|---|
| 「コミュニケーション能力」 | 3 | 「主体性・協調性」 | 2 | 「自己肯定感」 | 1 |

取組のねらい『自発的かつ自主的・自治的活動』

- 異学年児童と一緒に活動することで、互いに思いやる心や協力して活動しようとする意欲を育てる。
- 力を合わせて活動する中で、一人ひとりのよさを認め合う。

取組の具体的内容『異学年交流』

- 縦割り班（全20班）ごとに、校内オリエンテーリングを行う。



取組の課題・創意工夫『主体的な計画・準備・運営・振り返り』

○児童会・6年生が中心になって計画・準備・運営させる等、自主性を大切にする。

- ①児童会より「チャレンジランキング大会」について提案
児童会役員で決定→代表委員会
- ②児童会役員から6年生全員へ提起→係の決定
→ルール決定・準備物づくり

○5年生がオリエンテーリング時のサポートをする。

○児童自身が活動を評価し、手作りの賞状を各班に渡す。

○低・中学年が6年生に感謝の手紙やメッセージを書く。



取組の成果（効果）『自己肯定感の高まり』

○内容や役割分担、ルール作りなど自己決定の場や機会を多く設定することができた。

○一人ひとりの思いや願いを大切にしてい取り組んだことで、自己存在感を高めることができた。

○協力し助け合って取り組んだり、互いのよさを認め合ったりすることで、共感的な人間関係を育てることができた。

○高学年（6年生・5年生）一人ひとりが役割を分担し、協力して活動することができた。

○上級生が下級生のことを思いやり、下級生が上級生をよい手本にしなが楽しい活動をするこことができた。

○自分たちで決めたルールを守ることで規範意識が高まった。

○高学年としての責任や自覚、リーダーシップ等を、6年生から5年生に引き継ぐことができた。

○自己肯定感が高まった。

チャレンジランキング大会後アンケート集計 6年・5年 (71人)

1 そう思う 2 ややそう思う 3 ややそう思わない 4 そう思わない

| 項 目 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----|----|----|----|---|
| ①(6年生)先生の手をかりずに、自分たちで考え計画したチャレンジランキング大会をすることができた。(5年生)来年も、自分たちで考え計画して楽しいチャレンジランキング大会にしようと思った。 | 人数 | 52 | 16 | 2 | 1 |
| | % | 74 | 23 | 2 | 1 |
| ②一人一人の思いやねがいを大切にしたいチャレンジランキング大会をすることができた。 | 人数 | 38 | 24 | 9 | 0 |
| | % | 53 | 34 | 13 | 0 |
| ③高学年(6年生・5年生)一人一人が役割を分担して、協力して活動することができた。 | 人数 | 43 | 19 | 8 | 1 |
| | % | 61 | 27 | 11 | 1 |
| ④高学年(6年生・5年生)が手本となり、低中学年(1~4年生)を思いやりながら活動することができた。 | 人数 | 33 | 29 | 9 | 0 |
| | % | 46 | 41 | 13 | 0 |
| ⑤チャレンジランキング大会中のルールは自分たちで決め、低中学年(1~4年生)に守らせることができた。 | 人数 | 25 | 34 | 11 | 1 |
| | % | 35 | 49 | 15 | 1 |
| ⑥高学年としての責任や自覚、リーダーシップを6年生から5年生に引きつぐことができた。 | 人数 | 38 | 24 | 9 | 0 |
| | % | 53 | 34 | 13 | 0 |
| ⑦チャレンジランキング大会後、あなた自身に達成感(やり切ったぞ)や満足感(やってよかった)がわいてきた。 | 人数 | 45 | 15 | 9 | 2 |
| | % | 63 | 21 | 13 | 3 |
| ⑧この大会を通して、あなた自身が成長したと思いますか。 | 人数 | 39 | 23 | 9 | 0 |
| | % | 55 | 32 | 13 | 0 |

今 後 の 展 開『繋げる』

○3学期、5年生中心の児童会活動(1月21日~31日:31年度前期児童会役員選挙運動、1月31日:前期児童会役員選挙、2月6日:児童会役員引継ぎ式、3月6日:6年生を送る会)に繋げる。

○児童会生活目標やあいさつ運動強化週間等の取組に生かす。例:2月の生活目標「他の学年に優しく声をかけ、元気なあいさつをしよう」

他 教 科 と の 関 わ り『広げる』

○各教科・総合的な学習の時間・特別な教科「道徳」等の授業においても、主体的な学びを構成し、児童一人ひとりの自己肯定感を高めていく。

○本取組で培った資質・能力(主体性・協調性・自己肯定感等)を各教科で育成したい資質・能力(課題を設定する力・情報活用能力・論理的思考力等)に関連させ広げていく。